

リゾートタウンにおける自然体感を強化する低照度景観照明計画

中村有歩 細谷誠剣 今村梨紗子 芦立冴 小林茂雄 (東京都市大学)



①地点 2015 年 7 月施工

リゾートタウンの利用者の多くは都会の喧騒から離れた場所にある **自然の安らぎ**を求めてこの地を訪れます。立派な樹木や流れの清々しい川、臨場感のある土地の高低差など、この地域の特性を活かす照明計画を行うことで、昼間のみならず夜間の自然体感を強化するべく改修を行いました。

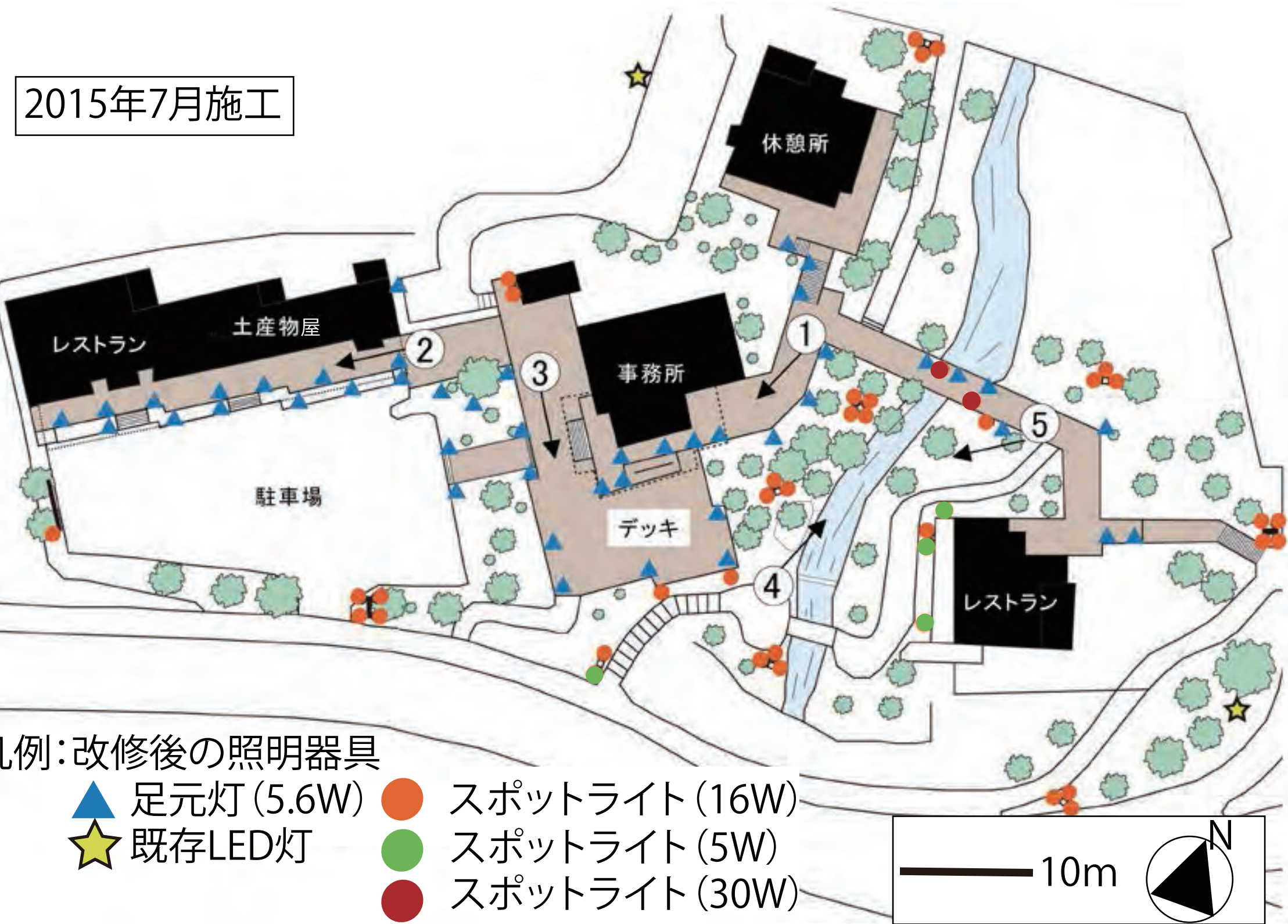
照明計画のコンセプトとして、**自然を美しく見せる・温かみと落ち着き・散策を促す・空間把握・省エネ**の5つを設定し、現地での調査を元に散策を促す**足元灯**、木々の奥行きを表す**スポットライト**などでより自然環境を体感してもらえるよう試みました。

全体的な照度を落としつつ、重要な地点や特徴に光を当てることで注目して欲しいところに視線を誘導する計画としています。

また、**温かみ**のある暖色の光にまとめることで、リゾート施設として照明の統一化を図っています。

結果として、平均路面照度は **15.73lx【改修前】→6.70lx【改修後】**と低くなったにも関わらず、「**温かみがある**」「**足元が見やすい**」「**緑が美しく見える**」といった評価を多く頂きました。

2015 年 7 月施工完了。



雪害対策: できるだけ低位置に照明を設置する反面、冬には 1-2m 積もる雪に対しても考えなくてはなりません。足元灯はデッキから最低限離れたところに木の杭を立て、スポットライトは効率よくポールに配置することで冬期期間も雪の上に露出するようにしています。

また、現地の方々の意見を元に雪かきによって破損しにくい位置を検討・設置しました。

改修前



全体の照度を均質に保つ白色光が高い位置に設置され、自然が感じられにくいものでした。安らぎや落ち着きとは程遠いものでした。

改修前



②地点



③地点

改修前



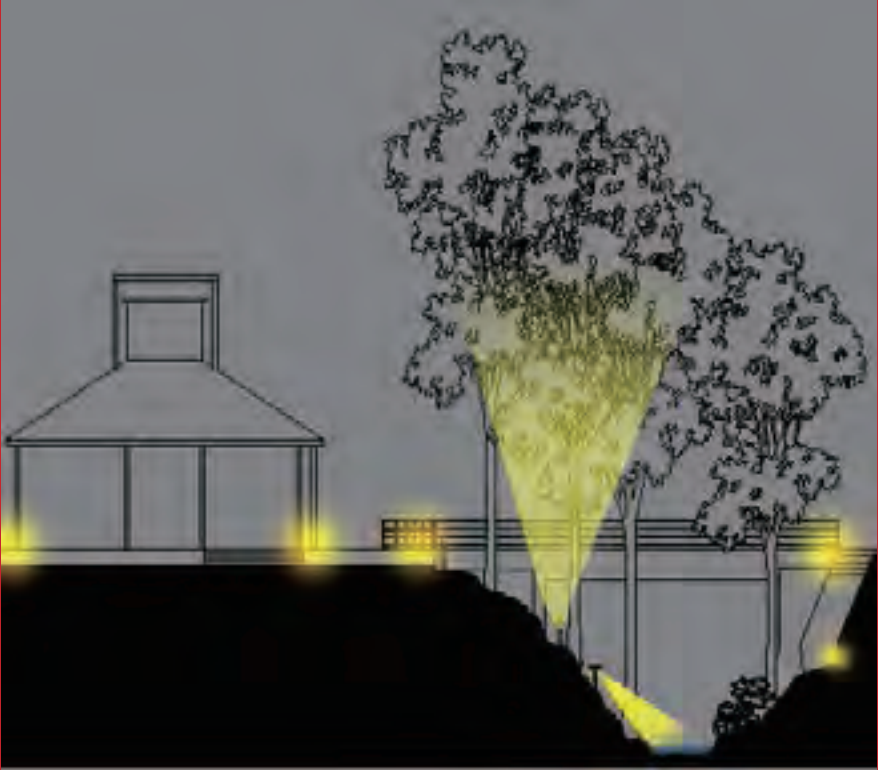
④地点



⑤地点

スポットライト: 主に樹木の**奥行き**を表現するために設置、低い位置から照らし上げることでより木々の青々とした**美しさ**を認識できるようになっています。他にも、川の流れに動きのある地点や小径の段差など、目を移して欲しい地点を重点的に照らしています。

改修後



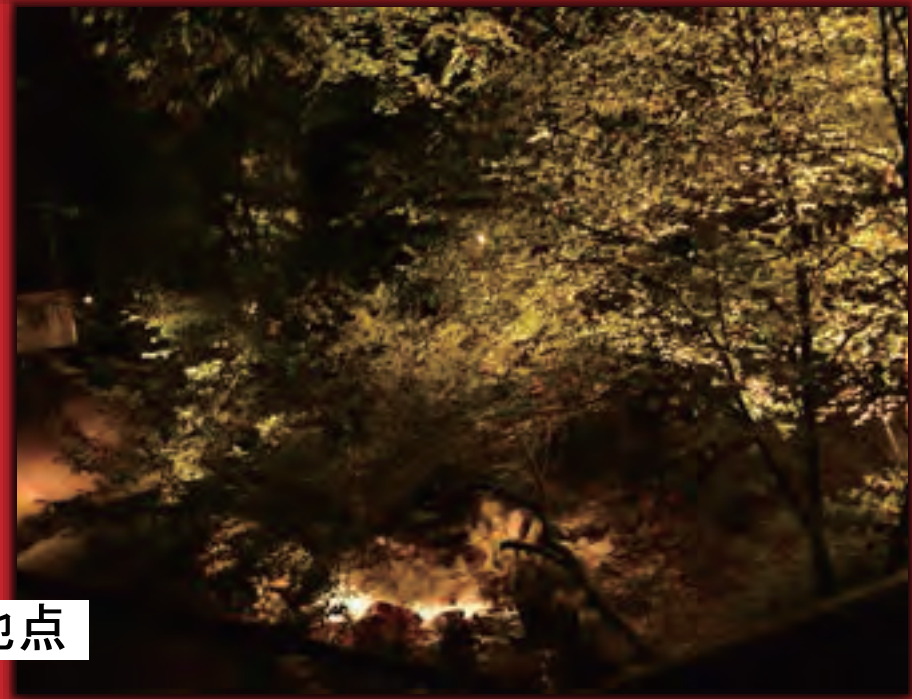
全体の照度を落としつつ、川面や木々、段差のある箇所など重要な地点をわかりやすく照らし、リゾート施設に相応しい暖色光で統一感のある温かみを表現しました。

改修後



足元灯: デッキや廊下の足元には低照度の足元灯を設置しました。**低位置に規則的に配することで追って歩きたくなるように散策を促します**。また、照度を抑えつつも段差や交差点など大事なところを重点的に明るくすることで足元の不安を少なくしています。

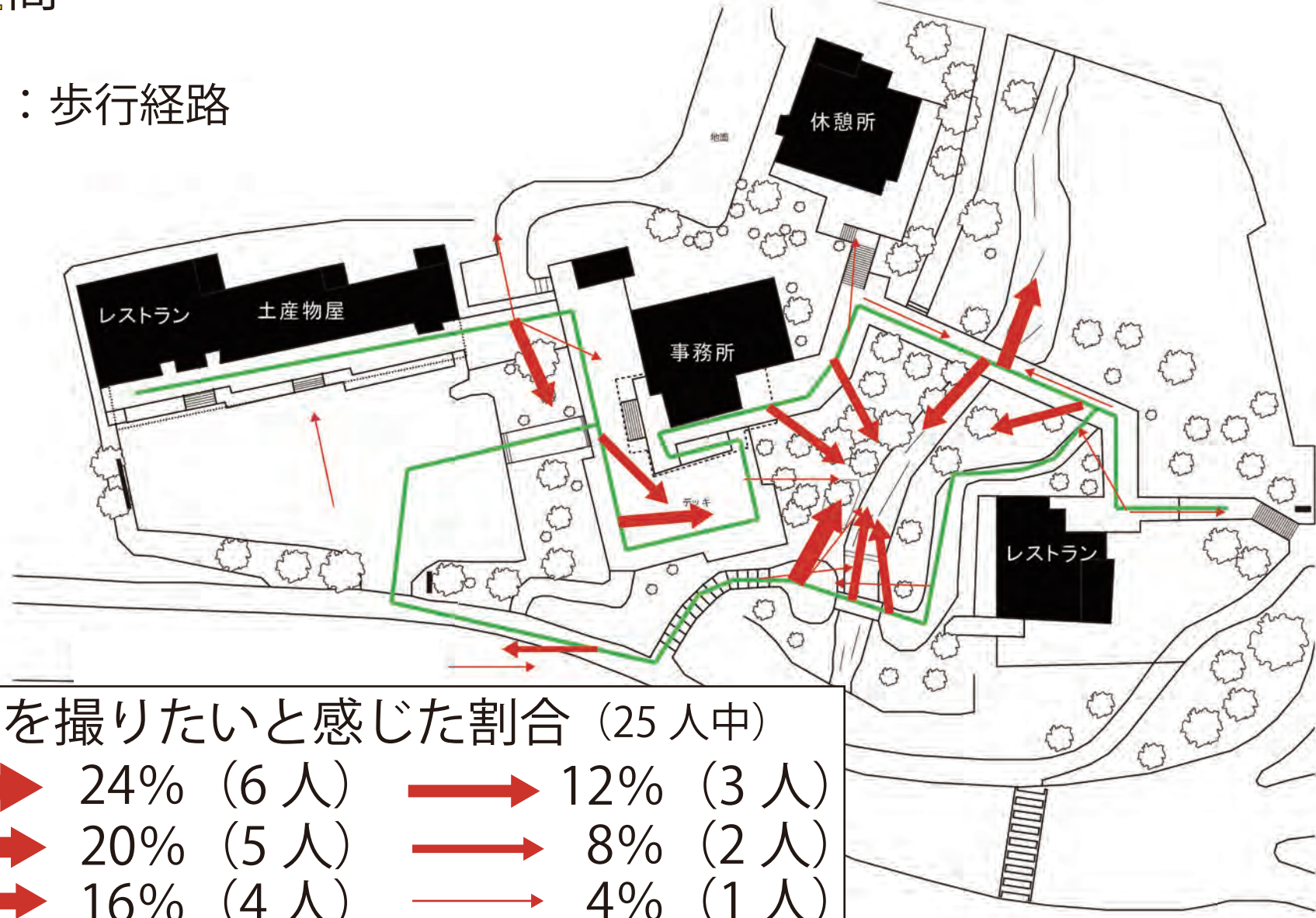
改修後



写真を撮りたいと感じた場所 (施設利用者25名を対象)

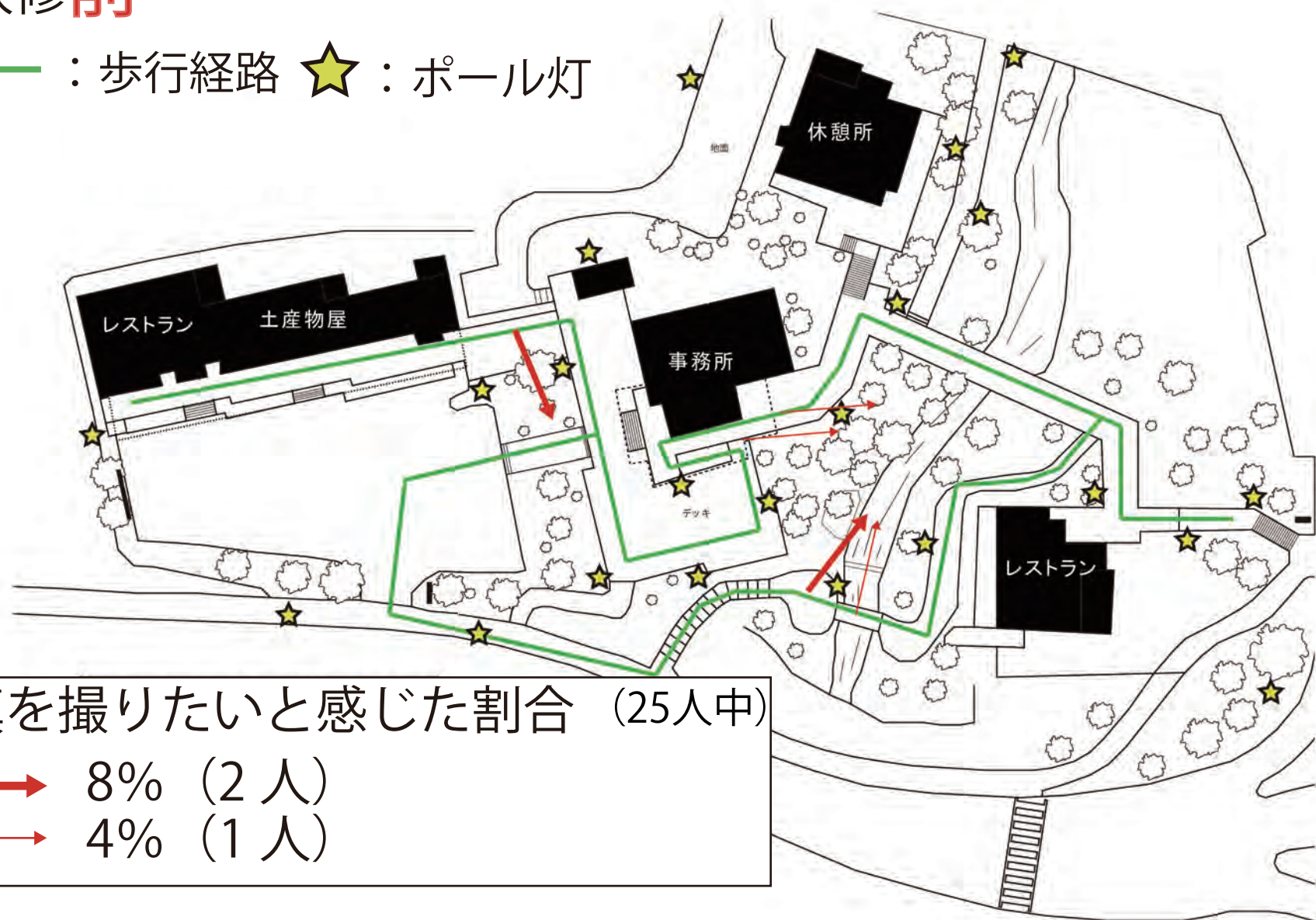
昼間

—：歩行経路



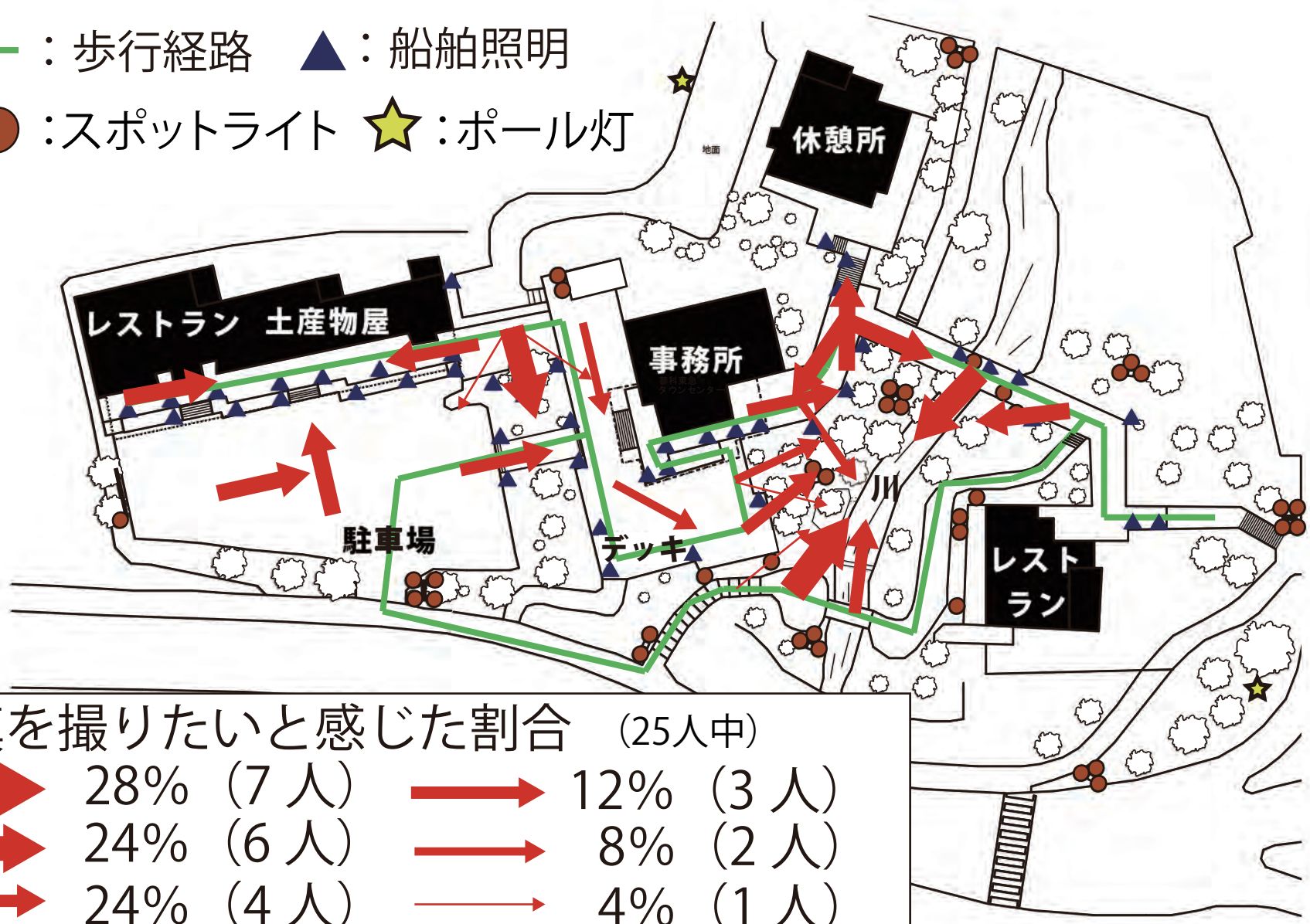
改修前

—：歩行経路 ★：ポール灯



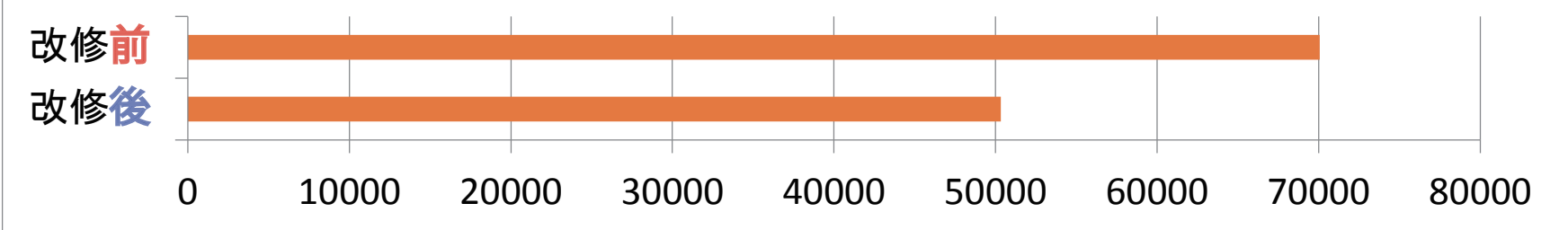
改修後

—：歩行経路 ▲：船舶照明
●：スポットライト ★：ポール灯

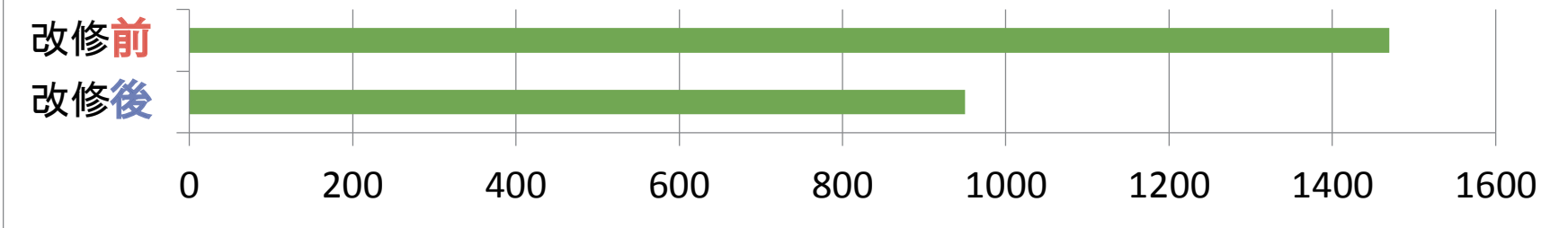


省エネ効果

全光束(lm)



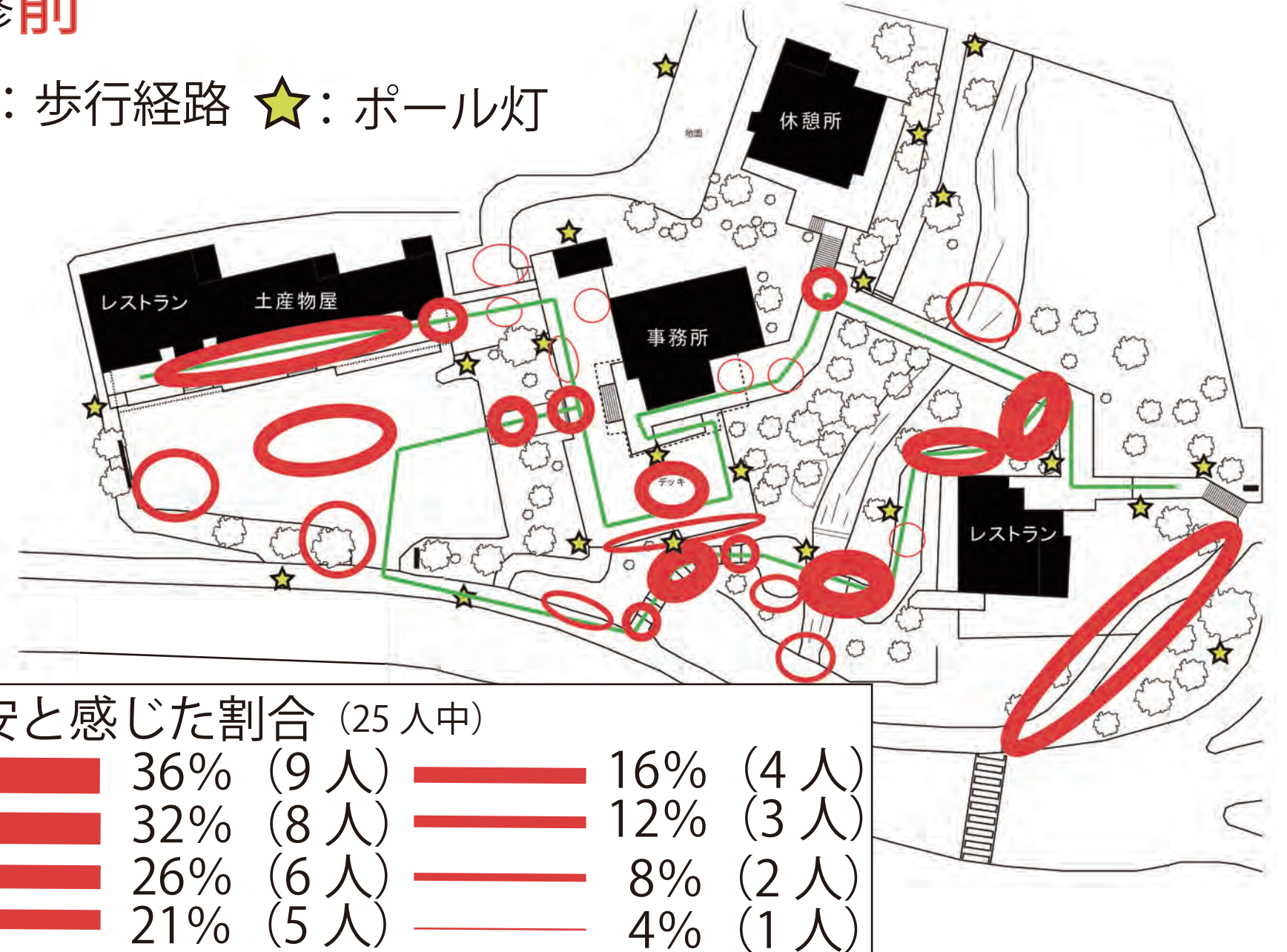
消費電力(W)



不安に感じた場所(施設利用者25名を対象)

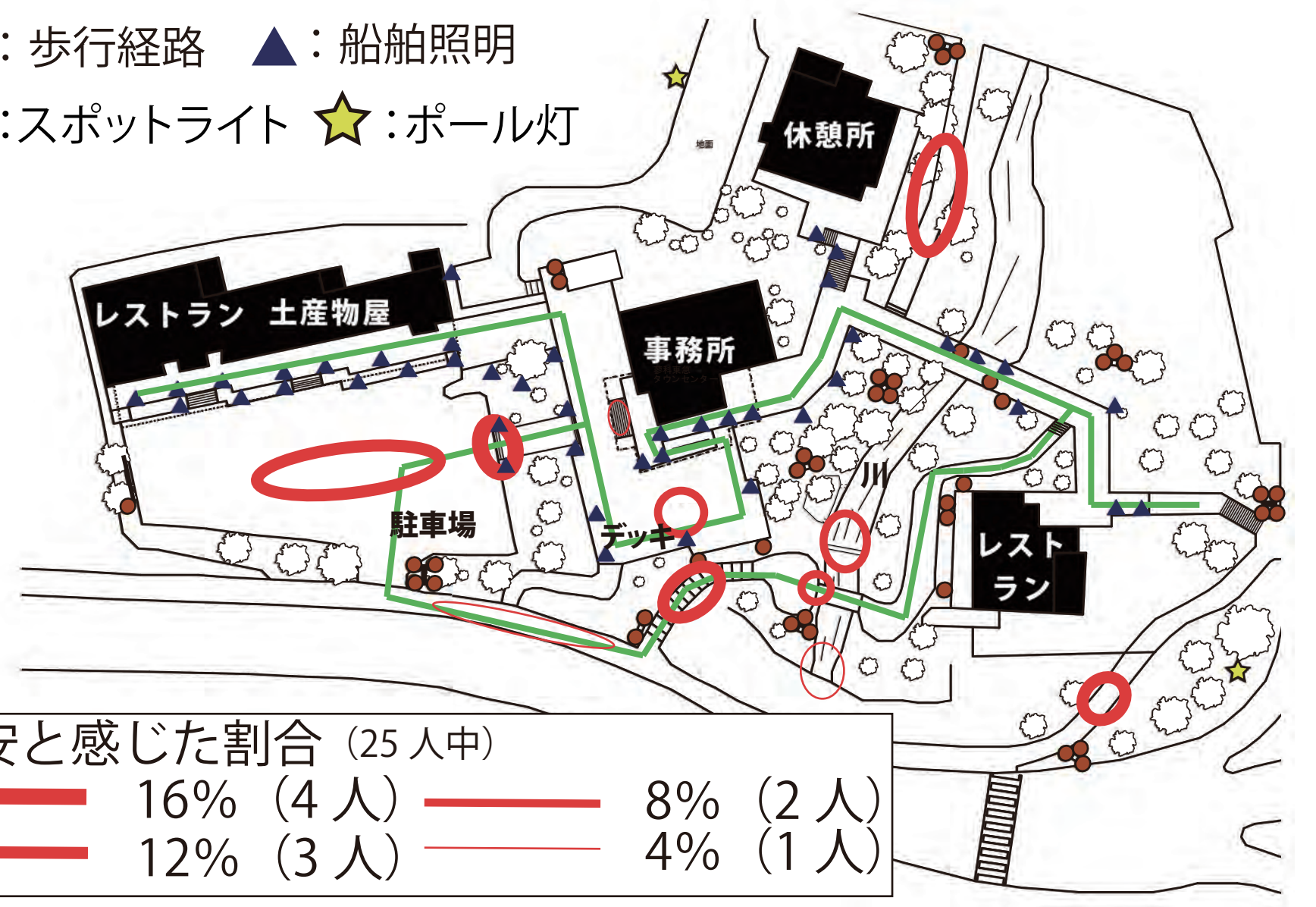
改修前

—：歩行経路 ★：ポール灯



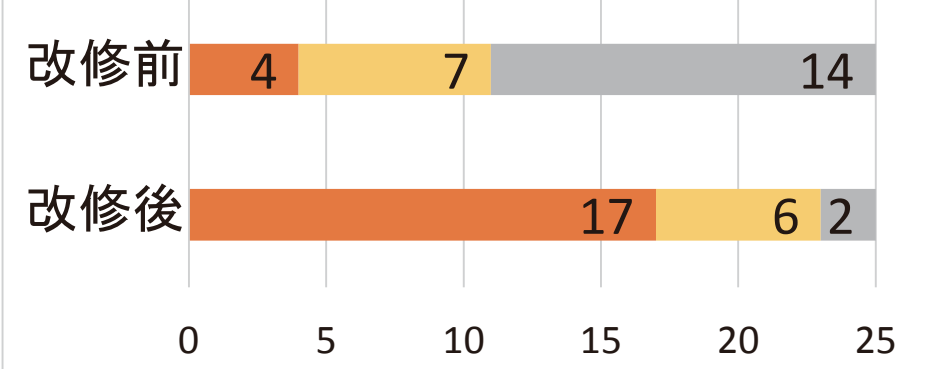
改修後

—：歩行経路 ▲：船舶照明
●：スポットライト ★：ポール灯

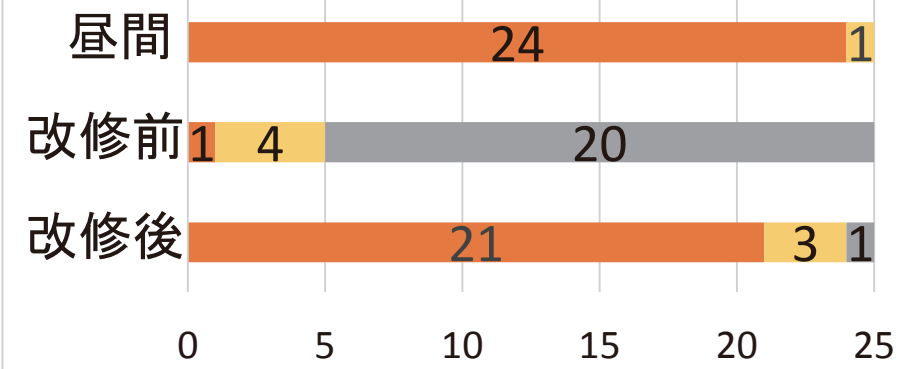


アンケート(施設利用者25名を対象)

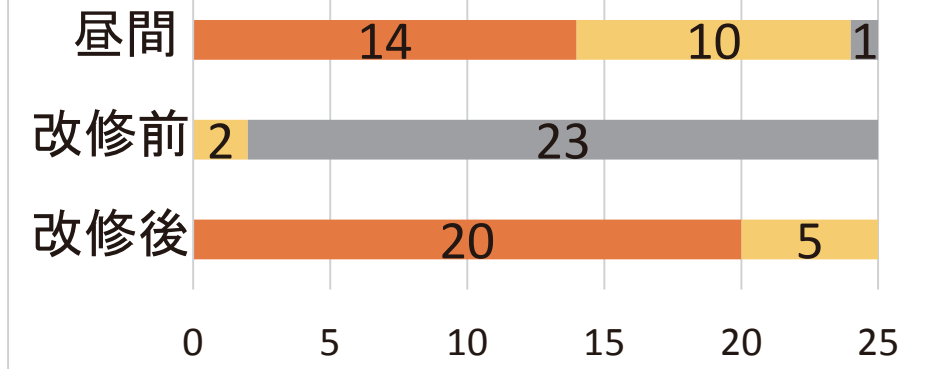
明るく感じる



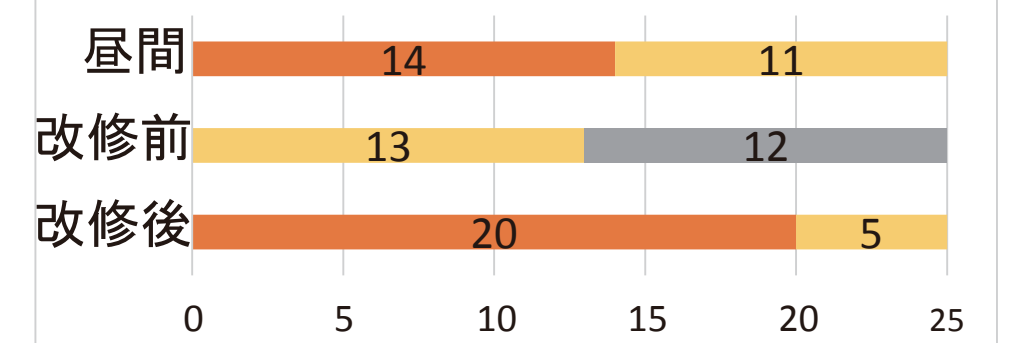
緑は美しく見える



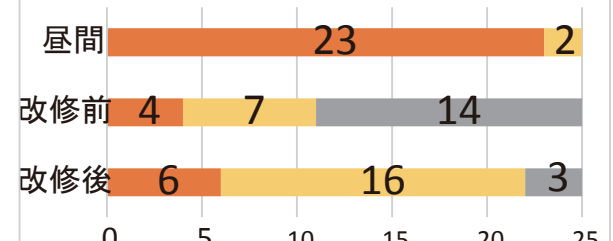
温かみがある



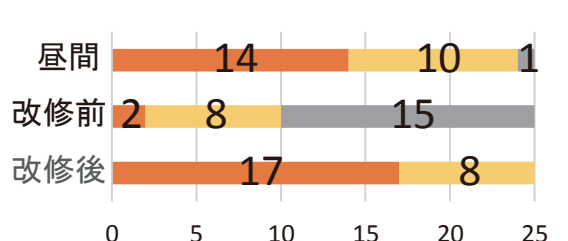
リゾート施設のタウンセンター
としてふさわしい



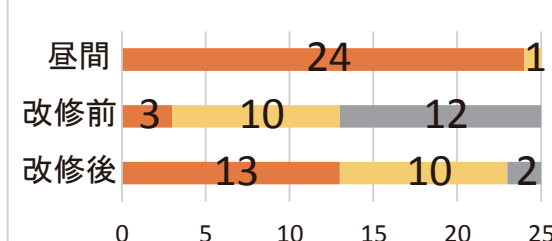
歩行経路20m先まで分かる



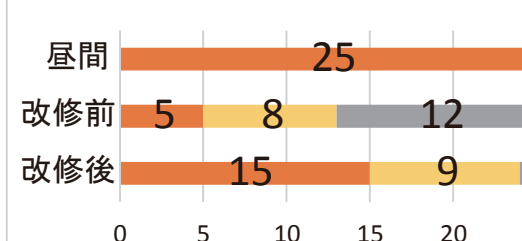
散歩して楽しい



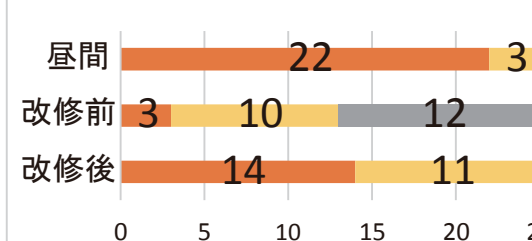
歩行に不安がない



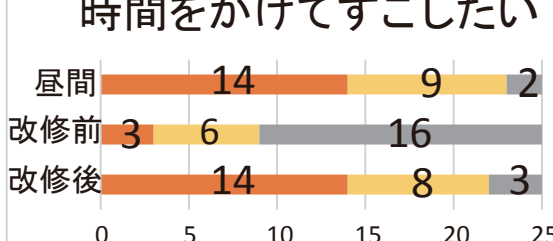
足元が見やすい



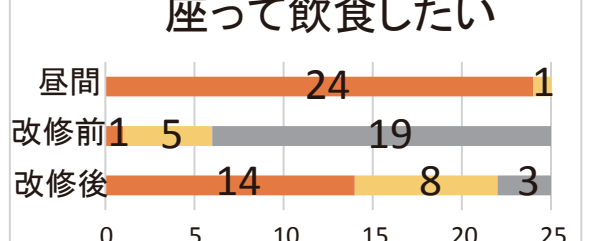
川に存在を感じる



ウッドデッキに座って
時間をかけてすごしたい



ウッドデッキのベンチに
座って飲食したい



■ そう思う ■ 少しそう思う ■ 思わない